



〈ある伝説〉2021年 (150号) 佐藤幸代 作

# 新 生

第 45 巻 号  
冬 新 生 会 広 報

なんぢら門をひらきて忠信を守るたゞしき國民をいれよ なんぢは平康にやすきをも  
こころざし たぎものをまもりたまふ 彼はなんぢに依頼めばなりーイザヤ書第26章2節～3節ー

*Open ye the gates, that the righteous nation which keepeth the truth may enter in.*

*Thou wilt keep him in perfect peace, whose mind is stayed on thee: because he trusteth in thee.*

—ISAIAH 26 : 2-3—

## ウクライナへの想い 佐藤幸代

この作品は、首都キーウにある聖ソフィア大聖堂（一〇三七年建立）をモデルに描きました。ここは一九九〇年に世界文化遺産に指定され、複雑な宗事情を反映して、特定の教派が管理しない博物館となつて、ウクライナ正教会や東方カトリック教会などが日時をずらして使用しています。

節くれ立った手で十字を切りマリア像に触れ、祈りを捧げていました。聖ソフィア大聖堂の内部の様子を見た時に、スカーフを被った民族衣装のお婆さんなど、バリネシテイ村人の祈る姿が思い浮かびました。あの祈りは天空に一条の光となつて昇って行くような神々しいものだったのだと思います。

私は二〇〇二年から三年にかけて文化庁在外研修員として、隣国ルーマニアのブカレスト美術大学で壁画修復を学びました。実地研修の一つとして、ウクライナ国境のバリネシテイという小さな村の教会の壁画修復作業に参加しました。一五〜六世紀の当時、文字の読めない人達にも分かるように、聖書のいくつかの場面の絵を修道院や教会の内壁と外壁にも描きました。風雨に強いフレスコ画ですが長い年月で傷みは激しく、修復は壁画に付いたカビや煤を慎重に、丁寧に除去することから始まります。修復は一センチずつ地味な作業をコツコツ続ける根気の要るものでした。その時出会った心優しい村人達は、農作業の行き帰りに荷馬車に乗り合わせて教会に立ち寄り、

コロナ禍やロシアのウクライナ侵攻など多難な時世、「私たちに出来ることは何なのでしょうか？」の問いに、九〇歳になる詩人の谷川俊太郎さんは「毎日の生活をちゃんと送ること。コンスタントに生きていく」と言うこと……と話しています。

宇宙年齢：一三八億年。  
地球年齢……四六億年。  
ニンゲン………？年。

成り行きをたおやかに悠然と生きる平和で穏やかな日々が一日も早く戻ってくることを願つてやみません。

### 佐藤幸代

一九四五年生まれ。  
二紀会委員（文部科学大臣賞他）、  
文化庁在外五〇周年記念展・安井賞展・昭和会賞展。



黎明  
明

時は金なり

朝は宝玉なり

しかして

黎明は金剛石なり

天来の妙音は

ただ黎明の数分間にのみひびく

天使は

あけぼのの雲にのる

後藤静香著

「天よりの声」より



原 慶子

羅針盤はどこにあるか

堀田善衛の「ミシエル城館の人」三巻を読みながらこの困難な時代を生きる自分たちの在り様に照らし合わせてみた。ミシエル・モンテーニュが生きたのは一六世紀のフランス、カトリックとプロテスタントの宗教戦争という激動の時代だった。モンテーニュは宮廷とも深い関係にありながら一人の人間として実存を重んじ自分の精神をステイジにしてエッセイを書き続けた。様々な時代環境を背負いながら一人の人間としていかに生きるかを深く意識化する人、少し気にかける人、ほとんど無関心で時代に迎合して生きる人、多様である。多分大多数の人々の関心は外側ばかりに向き、自分を掘り下げることをしないのだろう、彼らは社会変革にも関心が無いと思われる。

私は仕事柄ソーシャルヒストリーやソーシャルムーブメントには結構関心を持ち根元的にクリティックを行なう努力をしている。三年に亘るコロナ騒動は私の人生においても一大事であり、社会的には大攪乱を招いた大事件である。長年にわたるコ

ロナ騒動が人間性に与える影響について私は考察中である。そこから生まれたわたしの「希望」を披露したい。

今はイチダイジ、コロナはイチダイジ、イチダイジが三年も続くと倦怠となる。倦怠に埋没するとそこはどろ沼だ。わたしはあえて空の空なるかなと呟いた、そしてコヘレトを読んだ。空の空なるかな、その果ては天国だった。空の空なるかな、空になりきったとき、魂の土から平安の木が芽を出した。魂の腐葉土で木はぐんぐん成長した。萌黄色の葉は深いグリーンとなり、秋になって色とりどりに紅葉した。外の秋色とも共鳴し、魂には平安が満ち、魂はすっかり秋色に寛ろいでいた。これこそイチダイジの大いなる変貌だ。

社会状況がどんなに悪化し悪意にあふれてきたとしても、この平安はびくともしない。コロナに勝つということは、一人ひとりがこの「平安」を己が魂に育むことだ。「空の空なるかな」と祈るように何度も呟いてごらん、あなたの魂に奇跡が起きる、あなたの魂は青空に浮かぶ白い雲から生きる希望となってあなたに帰ってくる、これこそ波瀾をおさえこむ「羅針盤」なのです。



磨崖仏が破壊される様や、彫像が台座から引き倒される映像が流れたことがありました。ここでは造形という仕事そして芸術と社会の関係について考えたいと思います。

象徴的性格から彫刻は、先史時代より人々にとって最も大切なことを《かたち》として表してきました。世界各地で見られる石や土で作られた豊かな女性像は、豊穡多産の祈りの造形だと考えられています。それはやがて、大地母神の信仰へとつながります。歴史時代、社会が大きくなると、祈りは組織され民族それぞれの宗教となり、より精緻なイメージの聖なる形が作られるようになります。そして同時に王の肖像など示威のための形もあらわれてきます。

この時、ある集団にとり大切なものであっても、外の集団に同様であるはずもなく、ひとたび対立が起こると排斥すべきものとなり怖れにより破壊の対象となりました。また同集団内においても変革期には古い価値が否定されることが起こります。宗教に起因するものとして東ローマ帝国のイコノクラスム（聖像破壊）など多くの例が見られ、また政治的意味での破壊も常のことでした。このような彫刻の運命は、衝突や

変動として権力との関係を可視化してくれませんが他の芸術の場合はどうでしょうか。時代の空気、装飾から意志まで担う以上、共調又は反抗といずれにしても緊張関係をもつことになりす。言葉による大きな物語は人を団結させますが外に対しては排斥力として働きます。音楽も同様ですが一方かかると国境をこえる歌があることも忘れられません。

言葉の集積、そして人の小さな望みと果てしない欲望の境界は…… おそらく《感動》がキーワードになるのではないのでしょうか。その大きさだけでなく基点と方向すなわち感動のベクトルが問題なのだと思います。人が野辺に佇み手をあわせるとき心のベクトルは、あくまでも個を基点に働きます。心を動かすことをそわせること、感動は最小の、そして最強の力であり権利です。誰にもわたしてはならぬものです。

論壇

彫刻というしごと  
その小窓から見えるもの

伊津野 雄二

であること、すなわちその社会性と無縁ではないと思います。他の動物より力で劣る人類を生かす大切な能力であった共感する力、共働する力は文明を生み出す原動力でした。この時心を動かすという芸術的要素が力を発揮したことは疑えませぬ。

時に思うことがあります。欧州の街はずれの辻のマリアや、路傍の野の仏と、大聖堂や大伽藍の荘厳され立つものの違いは何なのだろうか。日々のささやかな祈りと他を圧する

他方ローマの闘技場の時代から、感動、熱狂、陶酔は権力の大好物でした。そして今日、感動は与えられることがあたりまえとなり、大きなビジネスにもなっています。見えぬ網からめとられ自由な意志、自己決定すら疑わしい日常があります。

少し原点に立ちかえり考えたいと思います。かつて人々は何に心を動かされてきたのでしょうか。あえてナイーブに過ぎる云い方をします。人は自然との関係のなか日々の労働

のなかで感謝や祈りを感じとつて来ました。今日一日を迎えられる喜び日暮れ時の感謝……誰もが抱く感情です。それは世界に耳をすませようとするピアノツシモの感動だといえるでしょう。かすかな木々のそよぎ、葉ずれの音、木もれ日、雨のにおいこれらが私たちの世界ですしその手ざわりに感動をおぼえるのでしょうか。人は自然との関係において、自らを再定義することが求められています。丹精をこめた田や畑も主人が去れば原野となり動物たちの領域となります。茅ぶきの農家はいつしか朽ち夏草にうもれます。人に自然に還る日があるように、美しく生きて美しく朽ちること、これも文明に求められるわきまえのひとつといえるかもしれませぬ。

川の流れに指を、大地に掌を、風に身体をあずければ、こどものように心ははじまりにもどります。その力を人はすっかり忘れてしまっているのでしょうか。草木のようにゆらぐ身体の深い呼吸は歌となり野や街を流れ、ひとびとをつないでゆくことでしょうか。そこに美しい旋律があるとすれば、それが芸術というしごとではないかと、今も夢想しています。



## コロナ禍にあって「友愛の精神」を育みましょう

原 慶子

「動物から感染する可能性のあるウイルスは六〇万種類以上にのぼるといわれています。なんどでもパンデミックはおきるでしょう。にもかかわらず、われわれの頭のなかには、いまだにソリユーションやアルゴリズムでいっばいです。利潤をもとめて、そんなことばかり考えている。精神のはたらきそのものが緊縮財政になり、じぶんの身体などかえりみない。コロナウイルスをひきよせたのは、そうした精神のあり方そのものであるともいえるのではないでしょうか？」（白石嘉治「青空と文字のあいだで」新評論）

### 失われる「自由な精神」

コロナパンデミックも三年となり、人々の精神は感染者の数の増加に脅かされ、人々を避け、なるべく引きこもるライフスタイルが普通になりました。精神的にも、ものごとを数字で判断する（アルゴリズム）ことが主流となり、人々の言葉（表現）はますます物質的になっていきます。精神的な言葉は後退し、人間の精神の自由は疎外の極限に達してきます。物理的にも友人たちと自由に会えなくなり、自由な精神のハタラ

キを喪失している人々もダントツに増えたような気がします。各人の魂はコロナ感染症という沈黙の兵器にこっぴどく脅かされ、自由な魂は絶滅寸前なのです。日常的な他者との会話の背景には、コロナパンデミックの感染者数がいともあり、意識はそのあたりに拘束されているので、本質的で根源的な言葉のやりとりができません。心がときめく会話はめっきり減りました。

人間性の特権として「感動する心」がありますが、コロナパンデミックは、人間から素直に感動するチャンスを奪っているように思われます。「感動」とは、魂（感情の元）が真底悲しんだり、喜んだり、共感したり、愛したり、感激したり、物事が刺激になって、真・善・美の感情が揺れ動き、さざ波をたてることなのです。その感動が日常生活から消えてしまったのがコロナ禍の現在ではないでしょうか？

### 「ナチユラルヒューマンマインド」と「友愛」

わたしはずっと「美しく生きる」ということをモットーにしています。「美しく」とは、「芸術的に」とは、じぶんの正直な感覚にそって、イマ

ジネイティブ（想像的）に、そしてクリエイティブ（創造的）に生活の在り様を形にしていくことです。ここでは自由な精神が躍動しています。コロナパンデミックのなかで日常生活が一変し、社会活動が制限され、自由な精神は、大きな違和感に責めさいなまれるようになり、想像の源であるナチユラルヒューマンマインドも失っていました。そんな状況でもナチユラルヒューマンマインドを維持していたのは芸術をなりたいとする芸術家たちでした。東日本大震災のときも、わたしが親しくしている画家も彫刻家も、人間の深い悲しみを絵画として表現し、彫刻家は造形しました。新生会にはそれらの作品が飾られています。

芸術家は、外側から不幸な事態が押し寄せても、なぜナチユラルヒューマンマインドを維持できるのでしょうか？その理由は、芸術行為がもたらす創造性にあります。芸術の道は、個人の天分に従って、絵画なり、彫刻なり、そのほかの芸術分野を選びます。芸術行為はあくまでもその個人の想像性と創造力によって実現されます。外側からの命令や指示によってなされるものではありません。ゆえにナチユラルヒューマンマインドが澁刺とした想像性を育み、創造力も鍛えられるのです。

### 友愛に基づく「コミュニティ」

一方、社会制度や法律の規制を受ける職業においては、個人の価値観

や判断よりも社会や組織の規則やマニュアルが優先されます。それらを重視し、従属している内に、人間はいつの間にか、おのれの精神の自由から離れ、社会や組織に自分を合わせることで安心するようになり、マインドはその陰に隠れてしまします。

わたしが恐れるのは、コロナが収まったとしても、人々が精神の自由を失っていることにも気が付かず、パーソナルな自覚もたず、国家権力（圧政者）の命ずるままに行動するようになってしまうことです。そんな矢先、幸運にもわたしは、一六世紀のフランスの思想家・エティエンヌ・ド・ラ・ボエシ（一五三〇〜一六三三）の「自発的隷従論」に出会いました。この著者の主張は「人間は圧政者の支配に自発的に隷従するものだ」ということです。しかし圧政者に屈することも悪だし、圧政を正当化することも悪だと言います。圧政と隷従に欠けているのは「友愛」です。「友愛とは『善人同志』の間にしか存立しえないし、互いに対等な者同士の間にある。一人ひとりが自立した個として友愛関係があれば、どんな困難な状況にあっても人間は精神の自由によって苦難を乗り越えていけるはず。新生会に集うみなさん！新生会は友愛を大切にしている協働態です。新生会の「友愛」を世界に向かって発信して行きましょう。



### 合同慰霊祭

一月九日、暖かく穏やかな好天に恵まれ、榛名聖公会において合同慰霊祭が、八幡霊園の新生会霊廟において納骨式が執り行われました。今年の合同慰霊祭も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症予防対策を行いながら、規模を縮小しての開催となりました。

合同慰霊祭では老年期を新生会のホームで過ごされ、昨年九月から一年間にご逝去された方々をはじめ、新生会の歩みにおいて功績を残された功労者、高崎市八幡霊園の新生会霊廟に安置されている皆様のご冥福をお祈りいたしました。

新生会霊廟で行われました納骨式では、一七名の方が新たに納骨されました。そして、新生会の敷地等にありまます四か所の無縁仏のお参りを行い、合同慰霊祭の日程を無事に終えることができました。

新生会と御縁のありました皆様の魂の平安をお祈りいたします。



霊廟にて納骨式

### 県道ふれあい花壇パンジー植え付け隊

一月二六日、高崎市緑化運動推進委員会の助成を受け、県道沿い花壇の植え替え作業が行われました。

春に植えられたマリーゴールドは、七月に高さ半分に切り戻され、その後、順調に復活し、まだ満開の姿。抜いてしまうのは可哀そうでしたが、寒さが来る前に新しいパンジー苗を活着させなければなりません。いつものように、保全係によって片付けられ、苗生産者である松田農園さんのアドバイス「パンジーは根っこが弱いから肥料は控えめに」とのことから、バーク堆肥を低めの規定量混ぜて耕しました。

今回は居住者四名、ご友人一名が植え付けに参加して下さいました。職員四名が加わって、一時間ほどで作業を終えることが出来ました。

今、真冬の寒さの中でも、黄、白、ピンク、紫色のパンジー四八〇鉢がきれいに並び、見る人の心を和ませてくれます。感謝です。



### 群馬交響楽団『心に響く音楽会』

桜が丘芸術ホールでは開園以来、プロ・アマ問わず年間一〇回近くの演奏会を毎年開催しておりますが、新型コロナウイルスによる緊急事態宣言以降、予定されていた演奏会も涙を吞んですべてキャンセル、外部の方の演奏会はご遠慮させていただく状況が続いていました。

そんな中、高崎市の広報にて群響メンバーによる演奏会の開催を募集していることを知り、祈る思いで応募したところ見事当選！およそ二年一〇か月ぶりに、桜が丘コンサートが再開されました！

久しぶりの生の音楽が芸術ホールに響き渡ります。弦楽四重奏の素晴らしいハーモニーが身体に深く沁みできて皆さん大感激。ようやくこの時が来たかと、思わず涙が浮かびます。弦楽アンサンブルとしてご登場いただいた

西谷康子さん、山田修平さん、太田玲奈さん、松本恒瑛さん、皆さまありがとうございました♪



### クリスマスリース作り

強力ボランティアの

協力を得て

今年は一二月二六日(土)心泉の家を会場に居住者・職員合わせて三〇名の方々が訪れ、個性豊かなリース作りを楽しみました。

リースを作る日は一日限りですが、土台となるリングづくりには二日前から有志のボランティアさんがせっせと通ってください四〇個ほどが準備されました。おかげさまで当日のリース作りは余裕をもって行うことができました。

飾り付けの材料、もみの木やスギの葉は新生会保全係や烏川森林組合のご協力により榛名地域の材料が集まり教会、各施設へ素敵なリースが届けられました。感謝！



時節柄黙々とすすむ



色とりどりのリース

### 玉川聖学院キャロリング

新生会においてボランティアの受け入れや学生さんとの交流は大切にしている伝統行事の一つです。特に玉川聖学院と新生会との繋がりは四〇年以上にも及ぶ歴史があります。新型コロナウイルス感染症の流行に歯止めがかからないこのご時世の中でも、玉川聖学院と新生会はリモート交流等で繋がりを継続してきました。今年のキャロリングこそは、どうか対面での交流ができないかと検討を重ねてきました。

一二月二日（木）一三日（金）の二日間、PCR検査を行った上で、学生さん一八名、引率の先生方四名に來会していただきました。念願の三年ぶりの対面でのキャロリングが実現する運びとなりました。

新生会へ到着後、榛名憩の園多目的ホールにて全館放送でのキャロリングを実施。その後は、桜が丘芸術ホールにてキャロリングを行った後、桜が丘職員が毎年行う恒例の観劇会を鑑賞されました。夕食後は新生の園、恵泉園内で讚美歌を歌いながら園内を歩いていただき、エンジェルホームに集合して合唱していただきました。その後はウエルカム

センターにてキャロリングを実施し、初日は終了となりました。

二日目は、コロナ禍においても玉川聖学院との交流をリモートで欠かさず行ってきた榛名春光園でのキャロリングです。温かみのある雰囲気の中、クリスマスカードやプレゼントを直接手渡しされた居住者の方からは、自然と笑みが溢れました。笑顔で向かい合いながらお話をされている姿を見ると、人と人との出会いつまり、being beingの関係が大切なのだと感じます。まさに念願の対面交流でした。

玉川聖学院と新生会との強い結びつきに感動しつつ、これからも末永く交流を続けていければと思います。またのお越しをお待ちしております。



感動の対面交流

### 第20回 21・老福連 職員研究交流集会in東京

コロナ禍の影響により二年間延期されていた老福連交流集会。今回は初のオンラインにより、一二月二日から三日にかけて開催されました。

今大会実行委員長である原慶子理事長からは参加者に向けて、①文化としての人間福祉の実践②自由な精神③自分の感性を大切にすること④自分の魂の言葉を表現することを軸として、今の時代に私たちに求められていることを強く訴えかけました。

初日全体会では『抱かれたイエス・「やさしさ」へのメッセージ』をテーマに立教大学名誉教授の渡辺憲司先生による記念講演。法人内の居住者も聴講していただくことができました。



原慶子実行委員長 開会挨拶

二日目には、慶應義塾大学名誉教授であり、経済学者である金子勝先生による、「日本経済・社会保障・福祉のゆくえ」をテーマとした講演をいただきました。

交流会のメインとなる分科会では、テーマ毎に参加者が集まり、それぞれの施設での実践報告をもとに意見交換を行いました。参加者の想いを共にわかちあうことで、知識だけでなく勇気も湧き、全国の仲間たちとの絆をより深める時間となりました。

今大会のテーマである「福祉は生きていく一歩みだそう新しい未来に向けて」にふさわしい交流を持つことができました。私たち社会福祉に携わる者として、心と心のつながりと直接的な触れ合いがケアにおいて一番大切であることを改めて感じた二日間になりました。



渡辺憲司先生 記念講演



# ホームアマガルト

介護付有料老人ホーム  
新生の園

美味、イタリアンで舌鼓

明けましておめでとーございます。季節は冬になり、寒い日が続いていますが皆様いかがお過ごしでしょうか。コロナが終息に向かわず悶々とする日々の中、一月某日新生の園では感染対策を万全に行い、グルメの会にて、『ソリッソ高崎店』での食事を企画させていただきました。

このソリッソさんですが、なんと、高崎市の名店を決める大会である、キングオブパスタ2022で優勝を勝ち取った名店でございます。キングオブパスタ優勝店ということで、パスタが美味しい店ですが、パスタはもちろん、ピザ、ハンバーグ、グ



Buono !

リルチキン等、メニューも豊富です。

洞窟の中のようなおしゃれな落ち

着いた雰囲気の内に入り、座席に

着いてまずは、今回の旅が無事に行

えたことに感謝の気持ちを込めて乾

杯させていただきました。前菜のサラ

ダとパンが運ばれてきました。ド

レッシングがとても美味。メインの

食事前ですがパンと一緒にペロリ。

しばらくすると、各々で選んだお料

理が運ばれてきます。すべての料理

が見た目にも素晴らしい圧巻です。

待つてましたと一口食べると、ほっ

べたが落ちてしまう感覚を味わうこ

とができました。一口食べるたびに

「美味しい」「美味しい」と言ってい

た気がします。(笑)

参加していただいた皆様には、こ

んなに美味しいパスタは初めて食べ

たという感想もいただきました。

美味しい食事のあとは美しい音

楽、ということ、高崎芸術劇場で

行われる群馬交響楽団による演奏会

を楽しませていただきました。

素晴らしい食事と音楽を味わうこ

とができたことに感謝しながら今回

の旅はおしまいです。

今後健康に気を付けながら、楽しいお出かけがたくさんできるようなることを願っています。

(野澤慶太)

健康型有料老人ホーム

マリヤ館

リンゴ狩り

二〇二二年十一月一〇日に、沼田

にある原田農園にリンゴ狩りに行っ

てきました。

申込者七名と職員一名で先ずはリ

ンゴ狩り。原田農園で受付すると今

年は群馬名月とフジの食べ放題。群

馬名月は甘み特徴で、フジは酸味

があり、皆様、大喜びで狩りにいそ

しんでいました。

その後、原田農園でリンゴを買っ

たり、知人に送ったりとお買い物

楽しんでいただきました。

お昼ご飯は、田園プラザ川場で自

由行動、ソーセージを食べたり、雪

穂高の新米を食べたりと満喫しまし

た。もちろんお買い物も。

最後は、赤城高原サービスエリアで、

ソフトクリームを食べて締めくくり、

とても充実した一日だったようです。



リンゴ狩りの締めはアイスクリームで



玉川聖学院のキャロソング

キャロリング

二〇二二年の最後のビッグイベン

トは、玉川聖学院の生徒さんたちに

よるキャロリングです。

コロナ禍のため三年ぶりの開催で

す。十分の感染対策を行い、規模も

縮小になってしまいましたが、居住

者の方々は大喜びです。

キャロリングの後には、クリスマス

スカードを施設居住者全員に頂き

ました。居住者の皆様の笑顔を見ると

本当に今回キャロリングが開催出来

たことを感謝します。

玉川聖学院の皆様との交流は長

く、四〇年以上になります。親子二

代にわたり新生会に訪問してくださ

る方もいらっしやいます。

願わくは今回をきっかけに、キャ

ロリングを含める交流が、再開し実

りある時間が持てるようになること

を祈ります。

(原孝洋)

介護付有料老人ホーム  
穂和の園・桜の園

クリスマスのお祝い

街中がクリスマス仕様になる頃、穂和の園・桜の園でもクリスマスに向けて有志によるアイシングクッキー作りや毎年恒例のクリスマス祝会が行われました。

クッキー作りは居住者の発案で始まりました。皆さん夢中になって細かい作業に取り掛かり、色とりどりのトッピングで可愛く出来上がりました。袋に詰めて完成すると「やっ」とクリスマスが来たわね！」と喜びの声も聞かれ、お部屋に飾ってクリスマスを迎える準備となりました☆



クッキー教室開催♪

例年通り二三日に行われたクリスマス祝会は、これまでは職員による

出し物として歌ったり踊ったり、ハンドベルを演奏してきましたが、今回は一年間の写真を使ったスライドショーを製作。BGMとして職員二名によるピアノとクラリネットの二重奏をお届けし、最後にはケアワーカーに鎌田副園長も加わり、クリスマスソングの合唱を披露してお祝いしました。皆様楽しいひと時を過ごされた様子でした。



クリスマスおめでとう！

コロナ禍で迎える年末年始も三回目となりました。終息の見えない状況ではありますが、皆様のご理解とご協力のおかげで穏やかに過ごすことができいております。無事に新年を迎えることが出来たことに感謝いたします。今年もよろしくお祈り致します。  
(池田すみれ)

軽費老人ホーム  
バルナバ館

バルナバ館のクリスマス

十二月に入るころより、バルナバ館もクリスマスを迎える準備が始まりました。バルナバ館ロビーには、大きなツリーが飾られ、居住者の方がクリスマスに向けてオルガンを弾く姿もありました。

十二月の音楽鑑賞会は、クリスマスバージョン。クラシックや讃美歌などを聞き楽しまれていました。毎回、音楽鑑賞会のお菓子がありません。今回のお菓子はショートケーキ。ご参加いただいた方からは、「美味しかった」と好評でした。ひとつひとつ丁寧に箱に入れていただいたので、私たちは、そのままお渡しでき



メリークリスマス

ました。皆さん、良いクリスマスを迎えられました。

ミニギャラリー  
今回は、二階の廊下の一画に飾られたお人形とタペストリーをご紹介します。

このタペストリーとお人形は、居住者の岡崎喜子様が、四〇年ほど前、ヨーロッパへ旅行した際、飾られていた人形に興味を持ち、オリジナルでつくり始めたという事です。「今までに一〇〇〇体くらいつくったかしら」とおっしゃっていました。



冬バージョンです

昨年、体調を崩し、お人形づくりをお休みしていたこともありましたが、主治医の先生の言葉をきっかけに、またつくり始めることができました。少しずつ体調も改善し、元気になってきたとのこと。  
バルナバ館にいらっしやった際には、ちょっと立ち寄ってみてください。  
(長濱弘子)



軽費老人ホームA型  
榛名春光園

ストリートオルガンコンサート  
今年度、榛名春光園は開園六五周年。それに伴い、多様化する居住者皆様の嗜好にお応えすべく、様々な行事を実施して参りました。

今回は音楽のジャンルから、普段耳にすることの少ない「ストリートオルガン」のコンサートを開催しました。演奏者はオーストリアのインスブルック大学でチロル民俗学を学ばれた音楽プロデューサーで民族音楽研究家の永谷義篤さんです。

ストリートオルガンは、別名「手回しオルガン」という名称の通り、ハンドルを手で廻して、折り畳んだ冊子状のブックと呼ばれる楽譜を読み取ることで音を奏でる楽器。その素朴で懐かしさ溢れる音色に、居住者の方も、



ストリートオルガンコンサートに  
元祖アルプスの若大将登場

「ハンドルの廻し方ひとつで、ずいぶん音楽性も変わるものねえ。」と、感心しきりでありました。  
(松山秀樹)

回転ずし

春光園では通常のお食事から変化を持たせ、非日常的な空間を作ってみてはどうかとの案で一日限定の「回転ずし」をオープンしました。

職員による複数回にわたる熱い打ち合わせの末、迎えた当日、電池で動く電車型の回転ずしマシーンがゆっくりと寿司を乗せて発車します。居住者は、春光園で初めて行われた回転ずしに大興奮です。

ネタは鮪や鯛等の定番はもちろん、特選ネタとして調理スタッフが実際に川場村で釣り上げた鱒を酢で絞めた自慢のお寿司まで登場しました。

目の前を通る回転ずしの様子に居住者からは笑い声。味には感動の声を頂きました。今後も様々なご意見に耳を傾けながら魅力的な料理を提供していきたいと思えます。  
(金田浩和)



新鮮なネタに舌鼓

養護老人ホーム  
恵 泉 園

季節を織る

朝晩の冷え込みが一層厳しくなり、一二月には思いもよらぬ降雪がありました。この時期になると、寒いからと居室から出てくる機会が減ってしまい、コロナ禍も相まって日中の活動が減ってしまいます。そんな中、屋内で暖を取りつつ、冬の季節を感じられる取り組みを実施しました。

恵泉園では、空いた時間を活用するべく「手遊びの会」と称したレクリエーションを入浴や行事と重ならない時間に行っています。内容は様々で、塗り絵や折り紙が中心ですが、桜の時期には花見をしたり、懐かしい映像をYouTubeを使って鑑賞したりもしています。今回は、冬の季節を感じられる折り紙を皆さんと折りました。難しい内容でしたが、さすがは子供の頃から折り紙を折っていたりもしています。今回は、冬の季節を感じられる折り紙を皆さんと折りました。難しい内容でしたが、さすがは子供の頃から折り紙を折っていたりもしています。



折り紙のスペシャリストたち



出来上がった作品

た居住者の方々。難なく進めて、最初はこちらが教えていたはずでしたが、最後は逆に教えられていました。「手は口ほどに物を言う」本来は、目は口ほどに物を言う、ですが今回は折り紙なので。同じものを折っているはずですが、仕上がりは人それぞれで、出来よりも数という人がいれば、反対に数よりも出来という人もいて、折り紙ひとつでその人がどういう人か、何を思っているのか伝わってきました。

折って、切って、くっつけて、折り紙はいろんなやり方があります。たまには手順が間違ったり、キレイに折れなかったりもします。同じように、人間も長く一緒にいれば時には折り紙のように折り合いがつかないこともあるでしょう。それでもいろんな人が関わって、織り合わせることでいい関係が築けるのではないのでしょうか。まずは折り紙を通して体験することにします。  
(新井溪司)

特別養護老人ホーム  
榛名憩の園

賑やかなクリスマス

一二月になりました。〇〇が今年もやってくる〜」そう、クリスマスです！この言葉を聞いただけで気分も上がってきますね。フロアに集まり準備万端、宴の始まりです。サンタ帽やトナカイの耳を付けて笑顔が溢れます。「もうそんな時期ね〜」みんなでクリスマス会ができて嬉しいわ」そんな言葉が飛び交いながらジューズやシャンメリーで乾杯！職員もサンタさんの衣装を着て皆さんと楽しいひと時です。会話も弾み、お腹も空いてきたところで皆さん大好きなケーキがやってきました。「わーっ！」と歓声が上がります、お皿に取り分けるとあっという間になくなりです。久しぶりに食べるケーキは格別なようでニコニコな笑顔の皆さんでした。



メリークリスマス☆

宴も終盤、クリスマスプレゼントをお一人ずつに配っていきます。可愛いコップや



きよしこの夜を弾いて下さりました♪

(富田敦貴)

靴下、羽織物など人それぞれです。「早く使いたいわ」「可愛いわね〜」と笑顔の皆さんを見ているとこちらにもサンタさんが来ないかな〜とと思う筆者であります。さあ、最後に皆さんで歌をうたいましょう！Eさんの電子ピアノの軽やかな伴奏でフロアは一気に盛り上がり、素敵な歌声が響きます。この時を待っていたかのようなEさんのピアノの音色やHさん・Mさんの綺麗な高音での歌声に思わずうっとり。ここはコンサートホールですか？と勘違いするほどです。また是非聴きたいですね！楽しい時間が経つのはあっという間でお開きの時間です。今年も一年ありがとうございました。また来年もこうして皆さんと楽しい時間が過ぎることを願っています。厳しい寒さの中で心温まる時間となったクリスマスの一と時でした。

特別養護老人ホーム  
誠の園

愛変わらず

二〇二二年クリスマス。今年も例年通り桜が丘の中庭にはクリスマスイルミネーション、施設の中にはポインセチアが美しく彩っています。変わっていく季節と変わらない景色。今年も色々なことがありました…。

クリスマスといえば外せないのがケーキとプレゼントに良質な音楽。ぜひくぶ詰め合わせたクリスマス会。選び抜かれたケーキのビュッフェに大ビンゴ大会。熟練のピアノニストによる演奏会に一夜漬けのハンデル。更に今年は誠の園で毎月行われている「絵本と語りの会」から鈴木育三さんを招聘し、クリスマス



大当たりでご満悦

にちなんだ絵本を朗読していただきました。毎年一足早いクリスマスを皆でお祝いする変わらない一日となりました。

続いてクリスマス恒例行事といえどもおなじみ桜が丘クリスマス観劇会。今年「よきサマリア人のはなし」を公演しました。諸般の事情で役者が大きく入れ替わる中、就職以来観劇会には縁のなかつた佐野仁久さんが満を持して初舞台。『やるからには全力で』をモットーに佐野さんは多くのアドリブを入れて無事にお披露目となりました。

今年の観劇会を通して色々なことを感じ、考えさせられる素敵な時間となりました。私たちが大切にしている『愛』ということでした。変わっていくものと変わらないもの。年が明けても皆さまと楽しく過ごせる時間を大切に♪



初主演で迫真の演技

(小野沢剛昌)



特別養護老人ホーム  
エンジェルホーム

待ってました！お正月

新年明けましておめでとうござい  
ます。エンジェルホームも無事に新  
年を迎えることができました。

元日は、お正月の飾りの中、職員  
の挨拶から始まり、『お正月といえ  
ばこれ』なおせち料理や、なんとお  
屠蘇もいただきました。おせち料理  
ではふたを開けたときの豪華な彩り  
に感動している方、また料理一つ一  
つの味に感動している方と、多くの  
感動が広がっていました。お屠蘇で  
は、おいしそうに口を添える方から、  
真っ赤になりながら渋い顔をされる  
方までいて、多くの方に味わって  
いただくことができました。

二日には、書初めを行ないました。  
職員と居住者で一緒に、一筆一筆  
丁寧に新年にかける思いを書き記し



一筆一筆思いを込めた書初め

いきました。デイルームに飾られた  
数々の書初めから、みんなの今年一  
年の思いの大きさが伝わります。



羽根つきで今年最初の共同作業

三日には、風船を使用した羽根つ  
きを行ないました。職員と居住者で  
ペアになり、必死で風船を追いか  
けていきました。中には上手に狙いを  
定め、とても良いコースへ打つ方や、  
相性抜群のペアで風船を打ち返して  
いく方もいました。見物している方  
にも、笑顔で見られている方や真剣  
なまなざしで勝負の行方を追ってい  
る方などいて、どの勝負も見応えが  
あり、とても盛り上がりました。

様々な思いを持って過ごしたお正  
月。職員と居住者が協力して、素晴  
らしい時間となりました。皆さんど  
のような思いを抱いて、今年一年を  
過ごしていくのでしょうか。今年一  
年もよろしく願っています。

(信澤宣世)

HALC自然学校

お出かけ自然体験

一〇月一四日と二一日、初秋のお  
出かけ自然体験として、安中市(旧  
松井田町)にある、純国産の製糸工  
場として日本では二か所しかない、  
碓氷製糸工場の見学に行ってきました。  
この企画では以前に世界遺産で  
ある富岡製糸場に行き紡績機械は見  
ましたが、実際に稼働している機械  
は初めてでした。様々な工程を経て  
そこで糸を紡いでいる職人の業を目  
の当たりにし、養蚕・生糸・製糸の  
歴史、石油製品や外国産におされる  
現状を伺い、実に学びの多い体験と  
なりました。



高速機械を間近で体感

翌一二月もお出かけを計画し、  
二五日はコロナの感染状況からやむ  
なく中止となりましたが、一八日は  
市内八幡町にある観音塚古墳へいっ  
てきました。

観音塚古墳は八幡霊園近くの住宅  
地の中にあり、一見しては古墳があ  
ると分かりにくい場所にあります。



多種多様な出土品が300余点展示

終戦間際に防空壕を掘った地元の人  
に偶然に発見された古墳で、石室か  
らは三〇種類三〇〇点にのぼる出土  
品は、古墳の近くにある市営の考古  
資料館に常設展示され、見学ができ  
るようになっていきます。

現在はコロナ禍のため、まずは資  
料館の屋外で解説員の方から、古墳  
時代後期の高度な技術や国際色豊か  
であった出土品説明を受け、資料館  
内を見学。その後、住宅地を潜り抜  
けると小山のような古墳がいきなり  
現れます。石室へとつながる横穴の  
見学もしながら、古墳の頂上にあ  
る方もいました。ただ急斜面で手す  
りもなく、ちょっとした山登りの気  
分も味わいました。

(早川博之)

## あんしんセンター新生会

運動教室、元気に開催中！

あんしんセンター新生会の主催で毎年度開催してきました「いきいき運動教室」、二〇二二年度も一月六日から、無事スタートすることができました。コロナ禍ということもあり感染対策を講じながらの開催ですが、参加者の皆様のご協力のおかげで大きな混乱もなく、予定通り教室を進めることができております。

これまででは下室田町にあります榛名福祉会館をお借りしてきましたが、今回は中室田町にあります中室田大字会館に場所を移し開催。計一五名の皆様に申し込みをいただき、毎週元気に身体を動かしております。

午後一時半から始まる教室は、毎回九〇分間。まずは身体をほぐすことから始めます。軽快な音楽に合わせて十分ウォーミングアップができたところで、今度は脳トレの時間。頭も使いながら、楽しく身体を動かします。休憩の後、最後のメニューは筋トレ。お馴染みの「鬼石モデル」を使って、筋力の向上と転倒予防を目指します。

いざ教室が始まると皆様集中して運動に取り組まれています。教室の前後や休憩中は、リラククスタイ

ム。楽しい会話と共に、和やかな時間が過ぎて行きます。フレイル予防においては「運動」だけでなく、「栄養」や「交流」も大切とされていますが、「交流」の部分でも当教室の果たす役割は大きいようです。

全一三回の予定で開催中の本教室、今年度は三月末で終了となります。センターの次の目標は、参加者の皆様に教室終了後も運動を続けていただくこと。既に運動が習慣となっている方も多く、散歩や体操等に取り組んでいるという声も多く聞かれます。センターとしても運動習慣定着の一助として、教室終了後の皆様の活動もフォローしていければと考えております。

介護予防の波が中室田から榛名の地に広がっていくことを目指して、運動教室、元気に開催中です！

（高林正洋）



リズムに合わせて頭も身体もリフレッシュ！

## 新生会診療所

あたたかみのある医療を目指して

新生会診療所は、一九九三年竣工。本年六月で、丸三〇年を迎えます。今年度は、「診察券」や「問診票」の作成、医療機器はもとより書類・カルテ・レセプト、各種連絡体系等の点検・整備や検査体制の見直し。さらに、老朽化した設備の入れ替え、看板や院内表示の刷新、外壁等の改修他、随所で改善を図っています。

加えて、新生会診療所で快適に過ごしていただけるよう整理整頓を行い、日々の清掃を欠かさず、花を定期的な飾ったり、待合室に音楽を流すなどの取り組みも始めています。

四月より新生会診療所は、健康管理部を新設。同部に櫻井総務部長、管理者に鈴木忠先生を迎えました。今までよりもさらに、「安心・安全」な医療、そして「あたたかみ」のある医療を提供できるよう関係施設の見学や研修受講など、各々が研鑽を重ねています。

新生会コンピネーションシステムの一翼を担い、地域の方はもとより新生会に居を定めてくださった方お一人おひとり、そしてスタッフ一人ひとりの健康管理にスタッフ一丸となって努めていきたいと思えます。

（櫻井淳司・小野沢美智子）

## 【鈴木忠医師よりご挨拶】

昨年四月に新生会診療所に就任いたしました鈴木忠です。大学卒業後は病院で診療・教育・研究に従事していました。専門は循環器病ですが、診療所では内科一般を診療し、高齢者に寄り添い当地域の医療に貢献できればと願っています。

新年となりましたが、新型コロナウイルス感染症は昨年末からパンデミック第八波となり猛威を振るっています。国は社会経済活動を制限せず、むしろ推進しています。これは感染収束の兆しが見えているからではなく、社会活動における感染リスクは高まっていますが、感染防御は自己責任で対応しなさいということです。皆さん気を緩めず、日々の生活・職場で感染対策を実行しましょう。ストレスの多い一年となりそうですが、今年こそは感染症の脅威から解放され、人々が笑顔で挨拶できる年となることを願います。

なお、診療所は昨年より外壁補修工事中です。春には新緑の森のなかに輝く白亜の診療所となります。皆様方の受診をお待ちしています。



管理者 鈴木忠



# こがげ

## 新 生会 人 紹介

- ① 出身地
- ② 職種
- ③ 趣味・特技
- ④ 好きな有名人
- ⑤ 自分にとって一番の贅沢は
- ⑥ 好きな言葉

### エンジェルホーム

星野みどり (ホシノ ミドリ) 56



- ① 群馬県
- ② 看護師
- ③ 旅行
- ④ レオナルド・ダ・ヴィンチ
- ⑤ 海外旅行
- ⑥ なし

### 誠の園

佐藤 松江 (サトウ マツエ) 58



- ① 高崎市
- ② 准看護師
- ③ 卓球・旅行
- ④ スピッツ
- ⑤ 一週間程休暇をもらい旅行に行っている時
- ⑥ 一期一会

## 厚生労働大臣表彰

この度、榛名春光園園長の松山秀樹さん、榛名憩の園 調理員の黒川たい子さん、誠の園 ケアワーカーの友松澄人さんの三名が社会福祉事業従事功労者に贈られる「厚生労働大臣表彰」を受賞されました。誠にありがとうございます。



榛名春光園園長 松山 秀樹さん



榛名憩の園 調理員 黒川 たい子さん



誠の園 ケアワーカー 友松 澄人さん

## カップル紹介



新郎 富田優太さん  
新婦 (旧姓：萩原) 里恵さん (エンジェルホーム)

お似合いのカップルです♪  
末長くお幸せに。

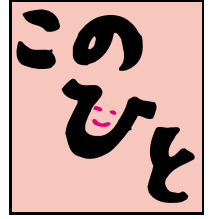


梅香ハイツ 赤尾 由佳さん

「おはようございます」と一オクターブは高い声で挨拶する赤尾由佳さん。調理員として榛名春光園から榛名憩の園に移動、梅香ハイツで仕事がしたいという一念で、逆指名という技を駆使し現在に至るとい骨ある一面を持ち合わせている。まるでアニメの声優のようなどこから出ているのという声にビックリ仰天。当初戸惑ったが今では声だけ聴くと一〇代？と思わせる声色の持ち主だ。アニメ繋がりなのか子どもの頃から絵を描く事が好きで、特に漫画

## もうひとりの私⑫

はすこぶる上手い。声優や漫画家の道を抑えて調理の道に進んだのは、高校時代お弁当を作っていた時にダイエットに目覚めたことがきっかけだ。四四キロまで痩せてもまだ痩せる事への情熱が衰えず、友人に心配され目が覚め食の大切さに気付かされた。そんな泥沼から脱出した経験から、健康のためにしっかり栄養を摂る事や料理の大切さを実感した。友とはありがたい存在である。家庭での立ち位置は妹に子どもが居るので跡取りはOK。自分は親の面倒を見る役目と言い切る。歌や踊りも好きで梅香ハイツの忘年会では、八木節やAKBの紙ヒコーキなど率先して踊ってくれる頼もしいキャラクターでもある。今度は何を踊ってくれるか、こうご期待。



バルナバ館  
とだ  
戸田 道子さん  
（九五歳）



戸田道子さん。底抜けの明るさと気っ風のよさ・粹なスタイルは、バルナバ館に入居して一四年間変わることありません。

戸田さんは昭和二年、東京神田にて一〇人姉弟の五番目（三女）として生まれました。父親は上絵師（きものに家紋を描く仕事）で、下町の人情あふれる環境で「みっちゃん」の愛称で伸び伸びと育ちました。年の離れた弟達が可愛がられる中、ひがむこともなく歩めたのは、「分け隔てのない関わりを大切にすると町の気風があったから」と戸田さん自身が分析しています。

その弟さんたち（今では大きくなつた）への愛情は、今でも強く強く持つが持っているらしいと感ずることがあります。

「父からは、人にご挨拶するときには、はっきり言うこと。日々感謝して過ごさなさい。」と言われたことが、日々の暮らしの中の軸になつて

いるそうです。

小学校を卒業後、東京家政学院に入学しました。戦争を経て、二〇歳の時、住友海上火災に就職、三五年間勤めあげ五五歳で定年を迎えました。OL時代は、スキーやゴルフ、社交ダンスを楽しみ、会社の年若い仲間とも楽しい時間を過ごしました。

平成二〇年に縁あってバルナバ館に入居。恵泉園でのボランティアや年配の入居者の用事を代行する等、とにかく人のために生きることが自然な形で出来る稀有な方だと感じます。友人も多く、また関わった人たちをとことん大切に生き様の根底には、下町で育まれた江戸っ子気質があるように思えてなりません。

取材の折、きれいな花柄のカーディガン、薄化粧をしている戸田さんは素敵でした。これもお父様の言葉「いい顔はあまりいらないよ。だから化粧してちゃんとしなさい。それが身だしなみってものだよ。」と言われたとか。深い！

底抜けの明るさの下には悲しみもあるかも知れません。でも、粹でいなせな人情家、九五歳の戸田道子さん。これからも戸田さんらしく強く歩み続けてほしいと願っています。



烏川流域森林組合代表理事組合長  
小栗上野介顕彰会会長 新生会監事



中学・高校と新島学園で過ごしましたが、それは安中市に住む大叔父が「若い時の教育

が大事」と父を説得した結果でした。中三の時、公立高校に進むか進路に迷った時にも「今、キミが新島学園で学べるといことがどれほど幸せなことか、後で判ると思うよ。」とアドバイスしてくれたのも大叔父でした。旧約聖書にある「汝の若き日に汝の創り主を覚えよ」との聖句は、私にとって大きな心の指標となっています。

家業は代々、林業を営んでいたの後継者として東京農工大学林学科に入学、卒業後は東京農工大学の大学院に進み、修了後、県立高校の教員を一四年間勤めました。

三八歳で、家業を継承するため県立高校を退職すると同時に、非常勤講師として新島学園に招かれた時、恩師でもある当時の新藤校長から「先生方は生徒のことだけを思ってやりたいようにやってください。」と受けた訓示が心に残っています。

四二歳で倉渕村議会議員になり、

誇りある故郷、元気な地域づくりを志して一二年。五四歳で村長になりましたが、ちょうど一期を務めたところで高崎市との合併のため退職となりました。

すると、全く思いがけず新島学園の校長に招かれたのです。勿論、そんな力などありませんが、ただ自身が過ごした素晴らしい日々を、生徒に伝えたい。新島学園を好きになつて欲しい、との思いばかりで六年間の校長職を担いました。

また現在、小栗上野介顕彰会会長を務めさせて頂いていますが、小栗公顕彰事業には、曾祖父の代から関わり祖父も父も役員を務めました。

この顕彰事業を通じて、勝者によつて都合よく作られた幕末・維新史を見直し、歴史の真実を発信する活動に取り組んでいます。

結びに、新生会への思いを述べさせて頂きます。私の両親が新生会でケアを受けていたころ、母はいつも「今に感謝、今に感謝。」と言っておりました。これからも、新生会は入居者のみなさんに『感謝』される場所であり続けて欲しいと願っています。

いちかわ  
市川 平治さん





習作 ゴッホ (武 公子)



越後の雪つばき (小幡 正昭)



榛名山麓 (豊永 清)

文 芸

梅香ギャラリー

絵画教室作品展



花束 (高橋 幸江)



秋の精霊 (渡辺 香代子先生)



落ち葉と遊ぶ幼子達 (鈴木 恵美子)



柿 (深江 弘子)



坊ちゃんカボチャ (渡辺 香代子先生)



紅葉の中の鹿 (五味 英子)

短 歌

霜晴れの野辺に花咲く寒桜  
小枝手折りて我が胸に挿す

三浦 修  
手に入れた雄蕊うつくし銀梅花  
神無月出雲の国は神有月  
病む人に友も見舞えぬ冬の日々

憩泉

俳 句

小春日の二た花三花返り花  
元旦や八十路歩まむ亀の如

福田 絃晴

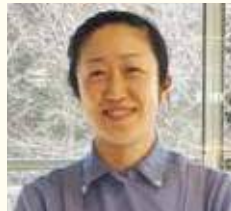
川 柳

浮き沈み水面の木の葉どこに行く  
今日もまた声かけあうは喜びぞ  
親友の忍耐強き対応や  
仕事とは仕える事と言ひ聞かす

オーサム

新生会同舟異夢の家族かな  
迷い老猫新生会の懐に  
たおやかな年始祝う温燗で

丸山 輝雄



ケアに生きる  
(147回)  
穂和の園  
ケアワーカー  
八月一日優花

学生時代、初めてお世話になった実習先が新生会でした。その際、「まずは座ってみていて」とステーションに案内され、しばらくそのまま過ごしたことがあります。その日の振り返りにて、どう感じたか聞かれ、正直に長時間の同じ姿勢がつか

は苦痛であることを覚えておいてください。でした。実習では、介護の仕事内容を学ぶものだと臨んでいましたが、それ以前に相手の気持ちに寄り添う事が出来ていなかったことに気づくことが出来ました。自らの身をもって学べたことは貴重な体験でした。そのような考えを持つ先輩方と共に新生会で働きたいと強く思いました。それから縁があり、今に至ります。働き始めるのと追われる仕事に夢中になり、職員本位になりがちですが、居住者の方々に寄り添うよう心掛けています。ほとんどの方は、入居後、家族よりケアワーカーとの時間が長くなります。更にはコロナ禍で家族に会いにくくなってしまいました。が、家族と過ごしているかのような心に寄り添えるケアをこれからもしていきたいと思えます。

新生日誌

〈10月〉

2日 第4変電高圧ケーブル本設工事

5日 お散歩自然観察会  
6日 職員採用試験

13日 就職説明会  
14日 お出かけ自然体験（確井製糸株式会社工場見学）

16日 新生会電機設備定期点検  
21日 お出かけ自然体験（確井製糸株式会社工場見学）

26日 就職説明会  
27日 職員採用試験

28日 お散歩自然観察会  
訪問（高崎市立榛名中学校 4名）

7日 お散歩自然観察会  
〈11月〉

8日 共愛学園前橋国際大学原慶子  
理事長によるリモート講義  
8日〜9日 群馬県立榛名高等学校  
福祉体験学習受け入れ

9日 合同慰霊祭・納骨式  
18日 お出かけ自然体験（高崎市観  
音塚考古資料館）

22日 夜勤職員定期健康診断1日目  
24日 モルテンオンラインMRSセ  
ミナー 2名受講

26日 クリスマスリース作り  
29日 公益社団法人全国有料老人  
ホーム協会外国人材活用無料  
オンラインセミナー（1名受  
講）

30日 お散歩自然観察会  
夜勤職員定期健康診断2日目

2日 第20回21・老福連 研究交流  
集会記念講演  
『抱かれたイエス。』や『やさしさ』  
へのメッセージ（渡辺憲司  
氏 立教大学名誉教授）

2〜3日 21・老福連全国交流集会  
6日 モルテンオンラインMRSセ  
ミナー 5名受講

8日 お散歩自然観察会  
9日 ユニ・チャーム排泄ケア研修  
2名

16日 お散歩自然観察会  
22日 職員採用試験  
22日〜23日 玉川聖学院生徒による  
キャロリング

23日 お散歩自然観察会

外聖常志援助  
- 新生会後援会便り -  
新生会の働きをお支え下さる皆様に新年のご挨拶を申し上げます。  
皆様からの温かいご支援に感謝申し上げます。健やかな一年になりますように、心からお祈り申し上げます。  
HALCセンター建設のための特別募金累計 16,717,128円（2022年12月末日現在）  
新生会後援会加入のご案内  
○個人会員 年間会費 1口 1,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。  
○法人会員 年間会費 1口 10,000円以上、毎年ご寄付して下さる方。  
募金の結果や使途につきましては小冊子「感謝録」にて毎年報告させていただきます。  
寄付方法  
郵便局からの振込み 振込口座 00160-6-48594  
加入者名 新生会後援会  
銀行からの振込み 群馬銀行室田支店普通預金0075469  
名義 新生会後援会会長 中澤宏則  
所得税等の減免手続きをご希望の方は、ご寄付くださる際にその旨を申し出てください。社会福祉法人新生会より寄付金領収書をお送り致します。

ホームページ <http://www.sinseikai.org/>  
E-mail [human-office@sinseikai.org](mailto:human-office@sinseikai.org)

編集後記

「新しい戦前になるんじゃないですかねえ。」  
年末に放送された『徹子の部屋』で、ゲストのタモリが、黒柳徹子の「来年はどんな年になりますかね？」という質問に対して言った言葉である。

現在の日本の政治状況に対する警告とも取れるし、政府が喧伝するような隣国の脅威を指しているとも取れる含蓄のある言葉だが、その真意はどちらだったのだろうか。

突如として決まった日本の防衛費の倍増。世論調査でも国民の半数以上が支持しているようであるが、その実態は、五〇年も前にアメリカで開発された時代遅れのミサイル、トマホークの爆買いである。

このまま日本が憲法を有名無実のものとし、今年二〇二三年が、将来『戦前』と呼ばれるようなことが、決してあってはならない。  
（吉川幸二郎）

新生 第45巻 冬号  
発行日 令和五年一月二〇日  
編集兼 社会福祉法人新生会  
発行人 原慶子  
〒370-3347 群馬県高崎市  
中室田町五九八三  
電話 〇二七三七四 一五一一  
表紙の写真  
〈ある伝説〉2021年(150号)  
佐藤幸代 作